

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「夢をつなぐ、文化をつなぐ、地域をつなぐ」総合学科高校 「つなぐチカラ」（知識・技術・情報をつなぐ活用するチカラ、人と人をつなぐ協働するチカラ、自分と社会をつなぐ自立するチカラ）を育むことで、社会に貢献する人を育てる。 1. 多様な進路希望を持つ生徒に対し、「活用するチカラ」を育み、「夢をつなぐ（夢を叶える）」学校をめざす。 2. 多様な文化を認め、共に生きることで、「人権意識」、「他を思いやる心」を持つ「協働するチカラ」を育み、「文化をつなぐ」学校をめざす。 3. 「安全で安心」な学校生活、地域との連携の学びから、「自立するチカラ」を育み、「地域をつなぐ」学校をめざす。

2 中期的目標

「生徒ファースト～達成感・充実感・納得感～」を基本的な考え方とし、生徒一人ひとりの多様な学びと進路を実現する教育内容と教育環境の一層の充実を図る。また、生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進める。 ※学校生活満足度を令和7年度には80%以上（R02：74%、R03：73%、R04：78%）を達成できるよう取り組む。
1 <u>夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）</u> （1）生徒の達成感のある授業をめざし、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。 ア 授業アンケート、授業充実研修、授業見学週間、授業公開を活用し、「深い学び～視覚化・構造化・協働化～」をテーマに授業の充実・改善に取り組む。 生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間実施することで、主体的に学びに向かう力を養い、「深い学び」と達成感のある授業へとつなげる。 各教科・科目やコアカリキュラム等での探究型学習を通して、思考力・判断力・表現力を養う。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における授業の満足度を令和7年度には75%以上（R02：70%、R03：62%、R04：65%）とするよう、指導と評価の一体化による授業改善に取り組む。 ※ 生徒向け学校教育自己診断「学習で自分が努力したことを認めてくれる」を令和7年度までの3年間引き続き80%以上（R02：76%、R03：73%、R04：80%）をめざす。 イ ICT を効果的に取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により学びの深化を図るとともに、教員研修や好事例の共有を継続して1人1台端末を有効活用する授業実践を拡げるよう取り組む。また、臨時休業時等においても生徒の学びを保障できるよう、オンライン学習体制の整備を進める。 ※ 生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率を、令和6年度までの2年間90%以上（R02：93%、R03：92%、R04：87%）をめざす。 ※ 教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率を、令和7年度まで引き続き93%以上（R02：93%、R03：97%、R04：95%）を維持する。 （2）希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成 ア 「総合的な探究の時間」や特別活動及びコアカリキュラムを中心に教科間の連携を有機的に進め、3年間を見通したキャリア教育や人権教育を通して、多様な進路希望を持つ生徒それぞれの夢の実現を図るとともに、進学説明会、就職説明会、分野別説明会、進路体験学習などを一層充実させる。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度を令和7年度には80%以上（R02：78%、R03：77%、R04：79%）とするよう、積極的な情報発信と取組みの強化に努める。 ※ 令和7年度までの3年間、学校紹介就職率100%（R02：100%、R03：100%、R04：100%）、卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率3%以下（R02：0.0%、R03：0.9%、R04：0.0%）を維持する。
2 <u>文化をつなぐ（「人権意識」が身についた「他を思いやる心」をもつ生徒の育成）</u> （1）各教科、コアカリキュラム、総合的な探究の時間や特別活動等、あらゆる教育活動において人権教育を一層充実させることで、生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒を育成する。 ア 人権教育に係る国及び府の関係法令等に基づき、在日外国人や障がい者に係る課題等をはじめ、様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。 イ 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実に努める。 ※ 生徒向け学校教育自己診断における人権に関する項目における肯定率を、令和7年度までの3年間引き続き80%以上（R02：87%、R03：85%、R04：84%）を維持する。 ※ 保護者向け学校教育自己診断における学校の人権教育に対する肯定率を、令和7年度までの3年間引き続き80%以上（R02：84%、R03：84%、R04：86%）を維持する。 （2）様々な国にルーツを持つ生徒がともに学ぶ本校の特色を最大限に生かし、国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力を育むとともに、SDGsの視点から文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育を推進する。 ア 多文化理解公演会、文化祭等の学校行事、ホームルーム活動、地域行事への参画など、あらゆる機会を通して、相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育む。 ※ 教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」93%以上（R02：95%、R03：98%、R04：93%）を、令和7年度までの3年間維持する。
3 <u>地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）</u> （1）生徒の納得感のある指導により、規範意識の醸成と個々の生徒への支援を行う。 ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通して、生徒の基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成をはかるとともに、いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会等での情報共有を通して、生徒が安全・安心に生活できる学びの空間を作る。また、情報社会において適切かつ安全に活用できる資質・能力を育成する情報リテラシー教育を進める。

※	生徒向け学校教育自己診断における生活規律等の基本的生活習慣に関する項目の肯定率を令和 7 年度までの 3 年間引き続き 80%以上（R02：79%、R03：74%、R04：80%）をめざす。
※	保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率を令和 7 年度までには 80%（R02：78%、R03：77%、R04：75%）をめざす。
イ	ケース会議の充実、福祉機関との連携を深め、保護者の協力も得て、教育相談体制をさらに充実させ、障がいのある生徒や課題を抱える生徒の支援を行う。
※	生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目の満足度を令和 7 年度までの 3 年間引き続き 67%以上（R02：62%、R03：62%、R04：75%）をめざす。
ウ	薬物乱用防止研修、食物アレルギーに係る研修等を実施し、生徒の健康と命を守る。
※	生徒向け薬物乱用教室、教職員向け食物アレルギー対応研修を毎年実施する。
(2)	生徒の充実感のある学校行事や部活動を通じて生徒の自主性、自己有用感を醸成する。
ア	学校行事や生徒会活動を通してやる気のある生徒のリーダーシップを育てる。
※	生徒向け学校教育自己診断における学校行事、部活動、生徒会に関する満足度を令和 7 年度には 78%以上（R02：75%、R03：71%、R04：76%）をめざす。
イ	部活動の活性化に継続的に取り組む。
(3)	地域連携
ア	学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを推進する。
※	近隣の中学校との連携や広報活動、地域連携授業、地域のイベントへの積極的参加等を通して、地域に根ざした学校づくりを推進する。
4	校務の効率化と働き方改革の推進
(1)	積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICT を活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減し働き方改革を進めるとともに、生徒と向き合う時間を確保する。
※	「成美高校マニュアル」の更新を進め、教職員で丁寧に読み合わせを行うことで、蓄積した教育資源を積極的に活用するとともに、チーム成美としての組織力を高め、業務負担の軽減を図る。
※	時間外在校等時間が月 80 時間以上の職員をなくす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 5 年 11 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導等】 ※（ ）内数値は昨年度 ・「授業はわかりやすく、集中して受けることができる」は 78（80）％で前年度とほぼ同水準であり、「教え方に工夫をしている先生が多い」は 79（70）％でありポイントが上昇した。「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」が 89（87）％と前年度とほぼ同水準である。1 人 1 台端末が活用できる環境を整備して ICT の活用を促進し、「個別最適学学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが必要である。 ・総合学科として多様な教科・科目を開設し、「選択教科は多様なものがあり自分の学びたいことを選べる」は 85（81）％と一定の評価を得ている。3 年間を通したキャリア教育とつなげて、生徒の進路実現を進めていく。 ・「学習の評価の方法や基準について納得できる」が 84（82）％と前年度とほぼ同水準であった。観点別学習状況評価による指導と評価の一体化をもって授業改善を進める必要がある。 ・「授業では実験・観察・実習をしたり、学校外へ見学に行く機会がある」は 56（48）％とポイントが上昇しており、実験・実習・観察、および地域等との外部連携などが少しずつ戻すことができている。 【生徒指導等】 ・82（80）％の生徒が「いじめなど困っていることについて真剣に対応してくれる」と答えている。教職員がアンテナを高くて日々の生徒の様子をしっかり確認し、情報共有と組織的対応を徹底し、生徒が安心して学校生活を送ることができるよう引き続き努めていく。 ・「学校は生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」が 82（80）％であり、「学校生活についての先生の指導は納得できる」は 75（68）％であった。規律面の強化を期待する保護者の意見と生徒が安全・安心に学校生活を送れるようにすることと、生徒の納得を得ることの両立ができるよう、教職員と生徒、保護者との間で、十分な対話による指導を行っていくことが重要である。 ・「文化祭、体育祭は周りと協力しておこなえる」がそれぞれ 86（82）％と 89（84）％であり、「生徒会活動は活発である」は 80（73）％であった。今年度は保護者等の参加などもあり、生徒と教職員の協力のもと、一定の充実感を持って学校行事を行うことができた。 ・「人権について考える機会がある」が 89（84）％で、「命の大切さや人間関係のルールについて学ぶ機会がある」が 88（84）％であり、若干ポイントが上昇した。人権を大切にした取り組みは引き続き、最重要課題の一つとして推進していく。 ・79（76）％の生徒が「授業や HR 等で将来の進路や生き方について考える機会がある」と、また 72（79）％の保護者が「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導と情報提供を行っている」と答えている。あらゆる機会を生徒のキャリア教育に繋げるよう、教職員で再確認し、取組みを進めていく。 ・「自分のクラスは楽しい」が 78（81）％で、「学校に行くのが楽しい」が 73（75）％であり、若干ポイントが下がった。引き続き生徒の満足度を高めていけるような教育活動を計画し、取り組むことが必要である。 ・「担任の先生以外に保健室等で、悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」は 74（75）％であった。いろいろな機会をとらえて生徒に声をかけたり、気軽に教職	第 1 回（6/2） ○学校生活に対する満足度について ・海外ルーツ生徒を含めて思い出に残るようなことができたらいよい。 ・中学校でコロナ禍により学校行事を経験していない生徒が本年度も高校へ進学しているので支援をお願いしたい。 ○本校の現状について ・部活動については、他校とのペアリングはないが、合同チームにより大会に参加するなど活性化をはかっているとのこと、引き続き活性化に努めていただきたい。 ・生徒指導面については、遅刻が少ないと成績面や進学面に良い影響をもたらすので、遅刻等に対する丁寧な指導を引き続きお願いしたい。 ○校務運営の効率化について ・留守番電話対応やメールリストの作成など取り組まれているようであり、保護者等に対してもしっかり周知していただきたい。 第 2 回（10/27） ○学校行事について ・縮小されていた体育祭や文化祭はコロナ禍前とまではいかないが、内容なども充実し保護者等の入場も可能になり喜ばしいことである。引き続き、学校行事の活性化をはかっていたきたい。 ○学校生活全般について ・自転車通学生徒のヘルメット着用について、安全面からも検討していただきたい。 ・授業において、グループ学習なども効果があるので、生徒の考える時間を増やして自ら考える力を養うよう工夫していただきたい。 ・部活動の活性化は学業につながることもあるので活性化できたら良い。 第 3 回（1/30） ○本校の現状について ・一度中止した学校行事を復活させると時間がかかるが、業務量と労働時間のバランスを考えて、必要な行事は実施して生徒が学校生活を楽しめるようにしていただきたい。 ・保護者向け学校教育自己診断の情報発信に関する項目を改善する必要がある。 ・各地で大きな災害が起こっていることもあり、地域も含めた防災の取組みを行っていただきたい。 ○令和 6 年度学校経営計画について ・子どものコミュニケーション能力が低くなってきていると感じる。コミュニケーション能力を上げる取組みを期待する。 ・コミュニケーション能力が育成できると考えられるので、部活動への加入の促進や教育活動の様々な場面におけるグループ学習などを取り入れていただきたい。 ○令和 5 年度学校評価について

府立成美高等学校

員に声を掛けることができる信頼関係を構築したりするなど、引き続き教職員が生徒と向き合う時間を確保するための工夫が必要である。 ・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」が 79（82）％と、若干ポイントが下がった。障がいのある人や支援が必要な人もいる中、学校関係者全員が安全に避難できる体制づくりと、常に確実な避難行動が実行できるように、引き続き組織的な研修体制に努めていく。 【学校運営等】 ・「部活動体験・仮入部などを通じて部活動の活性化に学校は努力している」が 74（65）％で、「保護者が授業を参観する機会を設けている」が 77（43）％であり、ポイントが上昇した。昨年度まで実施できなかった項目において、今年度は感染状況を見極めながら、安全に実施したことによるものであり、活性化をはかる取組みを続けていく必要がある。 ・「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」が 61（73）％で、「学校は教育情報について、提供の努力をしている」が 68（72）％であり、保護者のポイントを下げてしまった。今後も様々な機会をとらえて、“教育活動の見える化”を意識的に考えていかなければならない。 ・教職員評価では、「生徒指導において関係諸機関との連携ができています」「部活動の活性化について工夫している」「いじめやその疑いが起こったと際の体制が整っており迅速に対応することができる」などの項目で、それぞれ 95（84）％、60（41）％、97（84）％と大幅に上昇している。学校課題や新学習指導要領導入に対応するため、教職員が組織的に取組みを進めている。	・学校教育自己診断の結果から保護者にもう少し学校のホームページを閲覧してもらうためにホームページ閲覧の必要性および活用を伝える必要がある。 ○進路指導部からの報告について ・海外ルーツ生の進路について教えていただきたい。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
生徒ファースト・安全で安心な学びの場づくり	「生徒ファースト」を基本的な考え方とした教育活動と「安全で安心な学びの場」づくり	生徒の心身の状況を把握し、生徒を取り巻くあらゆる状況の変化に対応できる「安全で安心な学びの場」づくりを進めるため、毎朝の登校時に教職員による挨拶を行い、授業やホームルームにおいて1人1人が大切な存在として人権が守られていることが実感できるよう、きめ細かな声掛けを行う。また、生徒の多様な学びと進路を実現するために、本校独自の取組みや系列における選択科目を見直すことにより教育内容を充実させる。	- 生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度の肯定率 75％以上〔78％〕を維持する。 - 生徒向け学校教育自己診断「この学校には、他の学校にない特色がある」「選択教科は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる」の肯定率 80％以上〔75％、78％〕	- 生徒向け学校教育自己診断における学校生活満足度は 76.5％であった。（○） - 生徒向け学校教育自己診断「この学校には、他の学校にない特色がある」の肯定率 86％であり、「選択教科は工夫されていて、自分の学びたいことを選べる」の肯定率 85％であった。（○）
1 夢をつなぐ（確かな学力と進路実現）	（1）テーマ「視覚化・構造化・協働化」とした授業充実・改善の取り組み ア 新指導要領に基づく3観点を伸ばす授業充実・改善の取り組み イ ICT の効果的な活用と1人1台端末の有効活用 （2）希望する進路を実現できる「確かな学力」の育成	（1） ア・主体的に学びに向かう力を養うため、生徒が自ら考える活動や課題に取り組む活動を毎時間の授業に組み入れる。 ・コロナ禍において実験・実習や見学ができない場合の工夫に努める。 ・思考力・判断力・表現力を養うため、探究型学習を実施する。 ・生徒の資質・能力を確実に育成するとともに、生徒の自己肯定感を高めるため、観点別学習状況評価を通した指導と評価の一体化による授業改善に取り組む。 イ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により学びの深化を図るため、ICTを効果的に取り入れた授業を展開する。 ・教員研修や好事例の共有を継続して1人1台端末を有効活用する授業実践を拡げる。 （2） ア・進路希望に応じた論文や面接の指導、体験学習などの充実と工夫を図る。 ・進学のための学校情報や奨学金情報などの提供体制を充実する。 ・進学講習体制確立のため、1年時から面接等を通して生徒の進路希望を把握する。 ・社会を生き抜く確かな学力が身につけられるよう、コアカリキュラムを通じたキャリアガイダンスを充実させるとともに、探究し表現する活動に3年間取り組む。	（1） ア・「授業アンケート」の「授業展開」（生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている）に関する肯定的意見 85％以上を維持〔91.2％〕 ・生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度 70％以上〔64.5％〕 ・生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率 75％以上〔80％〕を維持する。 イ・生徒向け学校教育自己診断「ビデオ、スライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率 90％以上〔87％〕 ・教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率 93％以上〔95％〕を維持する。 （2） ア・生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度 78％以上〔84％〕を維持する。 ・1回めの就職試験合格率 70％以上〔82.5％〕を維持する。 ・学校紹介就職希望者の就職率 100％〔100％〕 ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率 3％以下〔0％〕を維持する。	（1） ア・「授業アンケート」の「授業展開」（生徒が自ら考える時間や発表する活動を多く取り入れている）に係る肯定的意見は 90.5％で目標を達成した。（○） ・生徒向け学校教育自己診断の授業に関する満足度は 72％であり、今年度は、教員の努力・工夫により実験・実習や見学の機会を昨年度より多く設定した結果、昨年度より上昇し目標に届いた。（○） ・生徒向け学校教育自己診断「先生は学習で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率は 81％で目標に届いた。（○） ・生徒向け学校教育自己診断「ビデオスライドなどの視聴覚機器やコンピュータやプロジェクタを使った授業がある」の肯定率は 89％で目標に達しなかったものの定着してきている。（△） ・教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率 97％であった。（○） （2） ア・生徒向け学校教育自己診断における進路指導関係の項目の満足度 82％である。（◎） ・1回めの就職試験合格率は 93.3％であった。（◎） ・学校紹介就職希望者の就職内定率は 100％を達成した。（◎） ・卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率は 0.0％で、目標を達成した。（○）

府立成美高等学校

2文化をつなぐ（「人権意識が身についた」「他を思いやる心」をもつ生徒の育成）	（１）生命と人権を尊重し、他を思いやる「豊かな心」を持つ生徒の育成 ア 様々な人権問題の総合的な推進 イ 「帰国生徒・外国人生徒」個々の教育的ニーズに応じた支援の充実 （２）国際的な視野や問題発見・解決能力、コミュニケーション能力の育成とSDGsの視点による文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献を理解する教育の推進 ア 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解	（１） ア・在日外国人に係る諸課題や、障がい者、生と性、感染症等の様々な人権問題について偏見や差別を許さない態度とその解決をめざした教育を総合的に推進する。 イ・「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」の学習状況や活動状況を校内で共有し、個々の教育的ニーズに応じた支援を着実に実行する。 （２） ア・あらゆる機会を通して、「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒」と「日本人生徒や地域の方々」との相互理解を深め、自己有用感を高め、他を思いやる心を育むために、多文化理解公演会、文化祭等の学校行事の実施、部活動を通した校外活動、地域行事に積極的に参画する。	（１） ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 80％以上〔84％〕を維持する。 イ・保護者向け学校教育自己診断の人権教育に対する肯定率 80％以上〔86％〕を維持する。 （２） ア・教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率 93％以上〔93％〕 ・中国文化春暁倶楽部および国際文化部の生徒、卒業生とゲストによる多文化理解公演会を 2 回〔2 回〕実施する。 ・高大連携、および地域連携による「生と性を考える授業」を 2 回〔2 回〕実施する。	（１） ア・人権に関する項目における肯定率は 81.5％であった。（○） 常に人権に係るメッセージを発信し続けたことが肯定率に現れた。 イ・保護者向け学校教育自己診断の人権教育に対する肯定率 79％であった。（△） （２） ア・教職員向け学校教育自己診断「在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している」の肯定率 97％であった。（◎） ・中国文化春暁倶楽部および国際文化部の生徒、卒業生とゲストによる多文化理解公演会を 2 回実施した。（○） ・高大連携、および地域連携による「生と性を考える授業」「より良い人間関係づくり」「ファインプラザ見学」をそれぞれ 1 回ずつ計 3 回実施した。（○）
3地域をつなぐ（安全で安心な学校づくりと地域に信頼される学校づくり）	（１）生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援 ア 「成美高校マニュアル」に基づく教職員共通の生徒対応を通した基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、いじめ防止対策委員会等での情報共有を通した安全・安心の空間づくり イ 教育相談のさらなる充実 ウ 薬物乱用防止研修、食物アレルギーに係る研修等の実施 （２）生徒の自主性、自己有用感の醸成 ア 学校行事、生徒会活動を通したリーダーシップの育成 イ 部活動のさらなる活性化	（１） ア・全教員による登校指導を毎朝継続して実施するとともに、声掛けを行う。 ・高い規範意識を育み基本的生活習慣を確立させるため、きめ細かな生活指導を行う。 ・中高連携による生徒支援を充実させる。 ・生徒にとって安全・安心に生活できる学びの空間をつくるため、いじめ防止対策委員会や生徒指導委員会等を定期的に開催し、生徒情報の共有による課題への早期、予防的対応を行う。 イ・カウンセリングマインド、共感的な姿勢で教育相談を進める。 ・担任以外にも生徒が相談しやすい教職員に出会えるようになることを意識して、教職員が日常の教育活動において声掛けを行っていく。 ・教育支援委員会（毎週）で課題を抱える生徒の状況を把握し、支援を行う。 ・SC, SSW との緊密な連携とケース会議、関係諸機関との連携を図る。 ・生徒支援に係る重要な情報は、秘密厳守で教職員全員が共有し、すべての教職員で見守りと支援・指導にあたる。 ウ・生徒向け薬物乱用防止教室、教職員向け食物アレルギー対応研修を毎年実施し、生徒の健康と命を守る。 （２） ア・生徒会役員や部活動生徒のリーダーシップを育成するため、体育祭、文化祭等の学校行事や学校説明会等における企画運営を生徒が担うように組織し、活躍する場を適切に設定する。 イ・部活動への参加を促進するため、新入生オリエンテーション、体験入部（中学生、新入生）を実施する。 ・部活動のさらなる活性化のために、日常の活動や大会・コンクールの様子をブログに掲載し、生徒の活躍する様子を発信する。	（１） ア・遅刻回数を前年度以下とする。 ・懲戒件数を前年度以下とする。 ・生徒向け学校教育自己診断の基本的生活習慣の確立に関する肯定率 76％以上〔80％〕を維持する。 ・保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率 78％以上〔75％〕 イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定率 64％以上〔78％〕を維持する。 ウ・生徒向け薬物乱用防止教室を夏休みまでに外部講師を招いて実施する。 ・いつでも全教職員が対応できるように、教職員向け食物アレルギー対応研修を年度当初に実施する。 （２） ア 生徒向け学校教育自己診断における学校行事・部活動・生徒会活動に関する満足度 75％以上〔76％〕 イ・複数の部活動において地域の中学生を招待する「成美カップ」を開催する。また、秋と冬の 2 回、中学生向けの体験入部を開催〔2 回〕する。 ・大会やコンクールの入賞数 10 件以上〔20 件〕	（１） ア・遅刻回数は 8320 回〔8241 回〕で、昨年度よりやや増加した。（△） ・懲戒件数は 47 件〔43 回〕で、昨年度より増加した。（△） - 生徒の状況をきめ細かく見つめ、また対話による指導を通して未然防止が必要である。 ・基本的生活習慣の確立に関する肯定度は 82％であった。（○） ・保護者向け学校教育自己診断における生徒指導に関する項目の肯定率 62％であった。（△） イ・教育相談に関し「担任の先生以外に保健室等で悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率は 74％で、目標を達成した。（○）相談窓口の周知と相談しやすい環境づくりを全教職員でめざす。 ウ・・ 7 月に生徒向け薬物乱用防止教室を実施した。（○） ・食物アレルギーに対応するための研修を 2 回実施した。また毎週の会議で共有を行い、緊急時に対応できる体制を整えている。（○） （２） ア・行事、生徒会活動等に関する満足度は 82％であった。生徒実行委員会と生徒会を中心に新たな行事を企画・実施し、一定の充実感をもってもらうことができた。（○） イ・コロナ禍の影響が残っており、成美カップの開催を中止した。（△） ・中学生向けの体験入部を 2 回開催した。（○） ・大会やコンクールの入賞数 30 件と健闘した。（◎）

府立成美高等学校

	（３）地域連携 ア 地域から信頼される開かれた学校づくり	（３） ア・近隣中学校等との情報共有・連携を充実させるとともに、広報活動を組織的に行う。 ・各部活動を通じ地域のイベント等に積極的に参加する。 ・生徒会役員、部活動部員、PTAにより、地域清掃等のボランティア活動を行う。 ・保護者に教育活動の様子が伝えられるよう、学校行事・部活動・地域交流等の取り組みの様子をブログに掲載する。 ・開かれた学校づくりを推進するため、地域施設との相互連携、地域連携授業を継続して実施する。	（３） ア・年度末・当初および年度中間における近隣中学校の訪問を５回以上〔５回〕実施し、切れめのない連携を行う。 ・地域のイベント参加数 25 件以上〔R01：51 回、R02：－、R03：－、R04：25 回〕 ・HP、ブログなど家庭への情報発信を充実させ、保護者向け学校教育自己診断アンケートの情報発信の肯定度 74%以上〔71%〕をめざす。	（３） ア・近隣中学校への訪問を４回実施した。（△） ・地域のイベント参加数は 29 件であった。（○） アフターコロナにおいては、地域に信頼される学校として、これまで行ってきた中高連携、地域連携を元通りに活性化させていく。 ・保護者向け学校教育自己診断アンケートにおける情報発信の肯定度は 65.5%と目標に届かなかった。（△）
4 校務の効率化と働き方改革の推進	（１）教育資源の有効活用と継承、ICTを活用した校務の効率化と働き方改革	（１）教職員の健康保持と能力を発揮しやすい環境づくり、および生徒と向き合う時間を確保するため、積み重ねてきた教育資源の有効活用と継承、ICT を活用した校務の効率化を進め、教職員の事務作業に係る時間を軽減し働き方改革を進める。	（１） ・時間外勤務月80時間以上の職員数を前年度より減少させる。	（１） ・成美マニュアルを更新し、年度当初に全教職員で読み合わせを行い、共通認識を構築することで、効率的な業務に繋げており、ICT の校務への活用なども行っているが、時間外勤務が月 80 時間以上であった教職員は昨年度と比べると 7 名から 8 名に増えた。（△）